京城新報

●陰暦 五月廿六日
發行兼編輯人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門內 京城新報社 電話六六三番

●韓國の好漁場

▲最大漁場　全羅北道の蝟島を中心として東陸へ十四海里、西大旺列島へ八海里南鞍島へ廿二海里、北古群山島へ十七海里の大漁場は大首魚、鯛、鰆、鱶及び雜魚群棲し漁獲豐饒にして實に韓國第一の好漁場なり

▲漁期及出漁者　漁期は蝟島附近に於て毎年八十八夜廿日前より向ふ三十日間、竹島及び蝟島附近は八十八夜四五日前より向ふ卅日間を最盛期日とし佐賀、香川、長崎、熊本、福岡、愛媛、岡山、廣島、山口、の各縣漁業者最も多く昨年は其出漁船一千七十九艘外に出買船二百五十艘あり又運送を專らとする漁船四隻ありて鯛、石首魚を主とし鰆、鱶等を鹽切又は生魚氷詰として本邦又は韓國內地の法聖浦、江景、群山、仁川等に販賣す而して本年の出漁船既に一千五百二十餘艘に及び出買船も亦增加したる模樣なり

▲漁獲高　本春の漁獲高は一艘平均三百八十圓にて內外の見込なる由右一千五百餘艘にて五十七萬圓の巨額に達すべし而して之等は多く前記各地に輸送するものにして此他に直接賣捌かるゝもの少なからず又肥料製造に從事せんと工場を建築せる模樣もあり今後同漁場は北海道、樺太の鰊漁場の如く莫大の利益を得るに至るべし

▲施設の急務　斯の如く漁獲多きに關らず出漁保護取締、郵便電信等の通信機關及び交通機關、漁船避難所、漁業者の上陸寄宿所等の設けなく其他食料の供給不充分にして且つ取締なく又漁獲物運搬機關の不完全なる等今後施設の急を要するもの屈指に遑あらず之れ同漁場の大缺點なるを以て此缺陷を補充するの方法を講ずる事は斯業獎勵上最も急務なるべしと

小品文

●清き犧牲●　夏夫

倭城臺上巍然として漢陽の天地を睥睨して乾立するもの、これ實に半島の重鎭たる我統監府なりとす、只見る宏壯の一官衙に過ぎずと雖、我神聖なる母國の太古史、上古史、中古史、近古史、近世史は、常にこの半島の經營を語らざるはなし、其歷史の半面を回顧すれば、數千年來幾多の同胞が清き犧牲を供して以てこの至嚴の基礎を造立したるなり矣豈に誰か仰てこの清き犧牲を拜し誰か俯してこの清き犧牲に謝せざるを得んや噫、

朝風に庭の若葉の香り來て旅路のうさを・忘れやはする　夏子

●迷懐●　高橋夏照

數ならぬ、身にはあれども、大丈夫か男子たる身の、家のため、世のためなどかいさをしを、たてさらめやと、ちゝの實の、父のみことや、柞葉の、母のみことの、みもとにも、仕へまつらず、はしきやし、兄弟ともに、西東、立別れつゝ、からき世を、しのびこそすれ、烏羽玉の、夜わたる月も、盈虧は、ありけるものを、春毎に、ちりゆく花も、又さかむ、年あるものを、いかなれば、うき事はかり、かぞへつゝ、うきめみらるゝ、あたにかく、月日すごさば、眞木柱、太き心は、劍太刀、いつかとぐべき、たてしてゝゐは、

●反歌●

よしや身は、人こそ人と、いはざらめこゝろのかぎり、つくさゞらめや、

新刊紹介

●熱帶植物奇觀　印度馬來熱帶地方に於ける植物の奇觀を闡明せるもの流石は學識深遠にして見聞該博なる三好學士丈の手並なり斯界に志すもの之を一讀せば其の得る所蓋し尠少にあらざるべし（一冊二圓東京神田區表神保町富山房發賣）

●臺灣鐵道旅行案內　先月擧行されし台灣流車博覽會の紀念として發行せるもの內容詳密叙述丁寧苟も臺灣の事情を知り又臺灣に渡航せんとするもの必ず一本を購はざるべからざるものなり（臺北城內府前街台灣流車博覽會事務所編纂）

●韓國經濟月報　最近に於ける韓國の經濟狀況を叙述せるもの記事精明統計的確正に唯一の參考書といふべし（度支部編纂）

●韓國鹽業調査報告　四百八十頁に亘る大冊子なり緒言に曰く「從來韓國鹽業に關する記錄の徵すべきものなし（中略）爰に吏員を派遣し韓國各道に於ける製鹽地の位置土壤の適否、海水の濃淡製鹽の方法等巨細に之を踏査報告したるものを編輯す」と以て其の內容を知るべし（度支部編纂）

●韓國外國貿易要覽　韓國樞要の港灣及都市に於ける最近の外國貿易の狀況を調査せるもの依例綿密にして且つ精確なり（關稅局編纂）

●蔘政事項調査書　「耕作許可の狀況」「蔘圃檢査」「水蔘運搬の狀況」「蔘圃監視の狀況」「規則取締の狀況」「犯則檢擧者に賞與金交付に關する手續」「收納及び製造作業順序」「製造期に於ける從事員概數」「憑勞帳簿及願屆書式」等に就て叙述せり（度支部編纂）

小說　新不如歸（四十四）　篠原嶺葉著

蛇蝎よりも尚恐ろしい足柄に呼び留られた百合子は、ぎよッとしながら然あらぬ樣子で立停つて、

「誠に相濟みませんが、今日は少し急いで居りますゆゑ、甚麼お話か存じませんけれど、どうぞ此度お目に懸つた時にお聞かせなすつて下さいまし。」

と、態と婉に笑つて又行きかゝると足柄は例の調子に力を入れて、

「では、僕の話は承かんと有仰るんですね宜しい貴女が承かんと有仰るなら話さないが、百合子さん、貴方は僕の辭を御承にならんと、非常に不利益な事がありますぞ、それも貴女のみぢやない、貴方の御實家は僕の舌三寸で殺すも生すも自由になりますぞ、それでも僕の話は承かんと有仰るか。」

と、殆んど我が辭には如何なる非理をも忍んで服從せよと云はぬばかり、命令的に斯う云つた。



百合子は行くにも行かれず、顫へながら悄然と立停つて、

「決して此お話を承はらないと申すのぢやございません、實家から迎に參りまして、少か二三時間の暇を貰つて出掛けたものですから、歸りが遲くなつてはならないと存じまして、それで御猶豫を願つたのでございますが、御機嫌に障りましたらどうぞ御免しなすつて下さいまし。」

と、悔しさを耐んで優しく云ふ。

「では、僕の話を承くと有仰るですか。」

「はい。」

と、微に答へた。

「しかし然うお急ならば、唯だ一言だけお話申して、後は後日寛りとお話ませう。他の事ぢやないですが、貴女は僕が結婚を申込むだ事を御存じですか、それが承きたいのです。」

百合子は何と答へて可いか、直と當惑したけれど、漸く思案を定めて、

「貴方樣へです。」

と、白々しく云ひ放つた。

「何方へでもありません、貴方のお宅へ貴方を僕の妻に貰ひたいと申込んだ事です。」

百合子は驚き顔に、

「いゝえ、那樣な話は夢にも存じませんが……。」

「では、兄さんから聞なかつたんですか。」

「はい。」

「では、改て承ませう、若も僕から結婚を申込んだ事を御聞きなすつた場合は奈何して下さる、諾と承知して呉れますか、それとも可厭と有仰るか。」

百合子は益々返辭に窮して、早や眼には涙が差含まれて居る。

「返辭の無い所を見ると、猶且可厭と仰有る積なんでせう、わし然うでせう。」

百合子は漸くに、

「それは今日の身の上では何とも申上げかねます。」

「なにも尾花が此處に居るぢやなし、僕と二人ぎりです、差支ないぢやありませんか

「假令良人が傍に居りませんでも、そればかりは申上げられません、どうぞ御免下さいまし。」

「いや、強て云はれんと有仰るなら聞きますまい、が、百合子さん……。」

と、云はんとする時、七八人連の兵士が通りかゝつたので、

「では、今日は殘念ながらこれでお別れ爲ませう、しかし此事を萬一尾花にお話なさるやうな事があると、必然復讎するから其心で居て下さい、いやさうもおやまさと

肥滿した軀に風を切つて去つた。

百合子は其後を恨めしさうに、後を眺め顔へ出る涙を袖に拭ひつゝ、足もそゞろに實家へと急いたのである。

京城新報

辭職を勸告す
（李完用君に向つて）

完用君足下、足下首相の椅子を勇退するの意なき乎、足下の機慧巧智にして何故に辭任を躊躇する乎、今は夫れ足下が首相の印綬を解くの好機に非ざる乎、機を見るに敏なる足下にして此快擧に出でざる乎、足下が現在の境遇は如何、足下の常識に富める能く自己の境遇を諒解せらるゝならん、而して足下の斷に雄なるは韓政客中稀に見る所なり、然るに足下現在の行動は常に之に反せるは甚だ奇怪なり。

試に足下が現境遇を顧よ、足下の味方は彼の宋秉畯との衝突に於て足下の地盤は却て鞏固に至れりと吹聽するも、事實に於て足下の地盤は決して鞏固にあらず、見よ足下は首相の位置に坐しながら閣僚たる一宋秉畯の爲に其主張を破られたるに非ずや、而も偷井主義的の趙重應を除くの外他の閣僚は悉く足下の味方たるに非ずや、然るに宋秉畯一人の爲に其主張を粉韲せられたりと聞くに於ては首相たるの威信何處にかある、之れ苟も男兒の忍ぶ能はざる所なり、而も足下は恬乎然として安坐せり、之れ足下の眞面目なる乎、足下更に追懷せよ、足下は朴齊純內閣に學相たりし時如何に煩悶せし乎、伴食大臣として快々樂まず、如何にして勢力を得んかと腐心したるの狀は傍觀者をして憐れを感ぜしめたりき。

時に友人あり足下に授くるに一策を以てす、足下乃ち其策を納れ南山方面に走ること幾十回、某に向つて自家の眞意を吐露し只管ら其信任を博せんとに勉め大に要領を得たり、足下は犬猿啻ならざる宋秉畯と握手し朴內閣打破を劃策したるは實に此際なり、而れども機運未だ到らず、性急なる足下は焦慮其度を進め憂懼に堪えずして學事視察と稱し義州方面に遊び或は濟州島に赴き當時渡航汽船の難破を幸とし數十日を彼地に空遊するに到れり、足下濟州島より歸りし時統監已に在らず、而れども足下の勁敵李根澤の倒れたるは足下をして少しく朴內閣に止まるの決心を爲さしめたり、爾來足下は足下に策を授けたる友人の勸告に基き忍耐持重以て南山方面より好音の降るを待ちたり。

時は回轉して四十年の春となりぬ、大磯の主人は歸れり、嚢に足下が南山に走りし効果空しからずして一瀉千里足下の內閣は現出するに至りぬ而れども記臆せよ足下の政權を獲たるは決して無條件に有らざりしことを悲哉賢く見ゆるも足下亦韓人なり、曾て南山の麓に爲したるの誓は得意に赴くと同時に漸く忘るゝに至れり、否自己の都合の爲に忘れんことに勉めたり其結果舌根未だ乾かざるに忽然として本性を露はし○○と伊藤統監との中間に立ち其平衡を保つてふ足下獨得の奇怪なる技倆を揮ひ双方の信任を維持して巧妙に働くに至れり、足下は一年有餘此平衡主義を以て其勢力を維持し來れり、然るに統監も足下の伎倆を稍看破せりと聞く、近時宋秉畯との衝突に於ける裁斷は之を證するに非ざるか、要するに足下の政治的生命は既に盡きたり、兄允用君の辭任と共に勇退すべき時なり、足下が首相の椅子に坐して狡智を弄び平衡主義を專らとするは日韓の關係を圓滑にする所以に非ずして却て危殆に陷るの恐れあり、而して足下は自國民よりも排斥せられ民心遠く離散せり、何れの點より觀察するも速に辭任して政治的生涯を脫するを好しとす、戀々として其終りを傷悼たらしむ可らず、或人足下に向て財の貴きを語り婦女の節操も容易に購ひ得べしと云へば足下は昂然として答て曰く、國亦財を以て買ひ得べしと、足下が財に對する見解は之を以て知り得べし、足下は其愛する財を長兄と共に過る數年間に能く蓄へたり、さらば最早政界を引退するも遺憾なからん、此點より見るも足下は引退せざる可らず、民心の離反及び日韓關係より足下を永く現職に置くは不可なり、余輩は速に足下の勇退を勸告するものなり。

北京電報

▲佛國の要求

雲南事件に關する佛國の要求は左の如し

一、當該官吏を處罰する事
二、總督を交迭する事
三、損害金廿五萬法を支拂ふ事
四、匪亂當時鐵道の運轉及び其の敷設中止に對する損害金を支拂ふ事
五、山西省より江西省に至る佛國の鐵道敷設權を延長する事
六、雲南、廣西の礦山採掘既得のもの以外に權利を讓渡す事（廿二日東京經由）

東京電報

▲社會主義者の暴行

昨夜社會主義者出獄歡迎會を錦輝館に開きたるに不穩の文字を記したる旗を押立て練り行かんとするを警官と衝突し格鬪一時間の後巡査四名負傷し暴行の嫌疑者十五名拘引されたり（二十三日發）

雜報

●資本金三百萬圓の大韓勸業銀行

韓國に於ける不動產抵當銀行設立は曾禰副統監歸朝の一要務にて爾來政府當局者と交涉中なりしが議漸く熟して設立することに內定したり其草案內容如左

一本行は大韓勸業銀行と稱す
一資本金は三百萬圓（五十圓券六萬株）
一政府は大韓勸業銀行の株式二萬株を限り優先に之を引受くることを得
一總裁一人副總裁一人理事四人監事三人以上

總裁及び副總裁は百株以上の株主中より理事及び監事は五十株以上の株主中より各二名以上の候補者を選みて政府之を任命するものとす而して其目的の大要は左の如し

（一）年賦償還又は定期償還の方法に依り不動產を抵當とする貸付但し年賦貸付期間は三十箇年以內とし定期貸付期間は五箇年以內とす
（一）韓國に於て法令を以て組織する水利組合及び金融組合に對し抵當を徵し又は之を徵せずして年賦定期貸付を爲す
（一）農工銀行條例に依り設立する農工銀行の發行する農工債券の引受
（一）前項農工銀行の發行し若しくは其の保證する貨物預證券を擔保とする貸付

次に貸付資金吸收の方法として預金並に債券發行の特權を有せり即ち左の如し

（一）資本金第一回の拂込みありたるときは其拂込資本金額の十倍を限り主務大臣の認可を得て勸業債券を發行することを得
（一）勸業債券の償還期限は三十年以內利率は年百分の六以內にて額面は五圓以上とす

同行設立の趣意は嚢に韓國に於ては各地に農工銀行を設け其補助機關として金融組合を設けたりしかど右は地方の小農に小資本を供給するに在りて今後韓國に於ける農工業の進步發達を謀るには之に相當する金融機關なかる可からず大韓勸業銀行設立の急務なる所以なりと云ふにありと

●大韓勸業銀行に就て
（第一銀行當事者談）

韓國に於ては農工業の金融機關として農工銀行の設あり度支部よりも幾分の補助金を與へて農工資金の貸出を行はしめつゝあれど其資本は極めて少額にて一般の需用に對しては殆ど九牛の一毛すら充たす難はざるの狀態に在り故に同國に於ける農業の整理開拓を遂げて富源開發の實を擧ぐるには是非とも土地抵當銀行の設備なかる可らずとは豫てより當局者間に其議ありし次第にて我々も亦かく信せり近く大韓勸業銀行の設立を見るに至るべしと云ふは決して偶然に非ざるなり現程第一銀行及び十八銀行支店五十八銀行支店に於ても現今韓國の不動產に對し貸出したる資金なきに非ざれども右は決して純粹なる農工資金に非ず第一銀行の目的とする所は內地に於ける日本銀行の如く商業機關の中樞と爲るに在りて不動產抵當に貸出を行ふは其本意に非ず居留民團の學校病院建築資金もしくは海壁築造水道敷設資金の貸出しを行ひたるは他に資金供給の機關なき爲め舊來の緣故もあり韓國の開發を謀るは豫てより澁澤男の夙志なるが故に止むを得ず市街地の不動產を抵當に貸出しを餘儀なくせられたる次第にて萬事過渡の時代に處する朝鮮の事とて是非なき成行と思ひ居るのみ十八銀行五十八銀行支店も亦然りとす斯の如く市街地の不動產を抵當に居留民團に對し貸出したる資金は相應にこれあるも曾て個人に對し耕地整理資金もしくは未開地開墾資金の供給を爲したることなし斯くの如きものに對し資金の貸出を行ふは農工銀行もしくは今後設立せらるべき大韓勸業銀行の責任にして商業金融機關たる第一銀行の本能に非ざるなり此際大韓勸業銀行の設立は時宜に適せるものにて我々の豫てより歡迎するところ毫も第一銀行の利害と衝突するものに非ず即ち內地に於ける日本銀行勸業銀行の如く各々獨立して其本能を盡し得べき時機の一日も速かならんことを切望して止まざるものなり

●大臣會議延期

昨日は統監邸に於て大臣會議開催の定日なるが英國東洋艦隊司令長官入京したるため伊藤統監に差閊を生じたるを以て本日に延期せられたり

●參與官會議延期

昨日は參與官會議の定日なりしが大臣會議と同じく統監府の差閊により本日に延期せられたり

●觀察使參集延期

本日は宋內部大臣同次官觀察使一同を內部に參集せしめ地方行政改善に關する訓示演說をなす筈なりしが別項記載の如く本日は大臣會議に差閊ふるを以て明日午後一時より參集する事に延期されたり

●鴉片吸烟禁止

近時韓人中阿片吸烟の惡習に感染し從つて夭死する者數多ある由なるを以て本紙は先日社說を以て爲政者の注意を促したる次第なるが聞くところによれば警視廳に於て韓民被害の點に付大に憂慮せられ今回淸國領事と交涉を遂げ兩國の巡査を以て阿片密賣者及吸烟者を嚴重に取締まることゝなしたりと

●山林、原野、礦山法規改正に就て

嚢きに開催せられたる道書記官會議及び觀察使會議に於て觀察使及び書記官は山林原野未墾地礦山等に關し人民に權利を付與する場合に地方官廳の意見を諮はずして中央官廳が直接に處理するは往々地方の事情に適合せずために人民の不平を來すの恐れあるを以て右の場合に於ける出願は地方官廳を經由せしめ此れが處理は其の意見を參酌する事となすべしと決議をなしたる由にて其の結果として山林原野未墾地礦山に關する法規の一部改正を見るべしとの說をなすものあるが此れに關し某當局者の語る處によれば右の場合に地方官廳の意見に重きを置くは一面實際の事情に適合して好都合なるが如き觀あるも現今の如き地方行政機關不完全なる狀態にありては假令中央官廳より其の意見を具申せしめんとするも充分に調査を遂ぐるを得ず日本の如き地方行政機關の整備せる今日に於てすら此等の場合に地方官廳の意見を徵するに當り諸種の困難あり即ち地方官吏が自治團体其の他との地方的關係のために充分に意見の開陳を憚るが如き蓋し人情の免れざる所なるべし況んや官廳の意見は往々にして左右せられし韓國に於て觀察使書記官が希望せる如き制度とせば却て弊害の生ずる事大なるものあるに至るべく右の規則を改正せらるゝが如き事あらざるべしと

●漢江航行と支那ジャンク

昨年末より龍山仁川間の漢江航路は暴徒襲來の爲殆ど其の航行杜絕せる有樣なりしが既報の如く去る十五日同江沿岸大曲附近にて日本船三艘海賊の爲に掠奪せられたるより今は仁川より龍山及麻浦に向ふ日本船は一艘もなきに至りし爲め仁川の解業者は多大の損害を蒙り目下皆休業せる有樣なるより仁川商業會議所にては其筋に對し速急に同航路線保護の請願を差し出したることは既報の通りなるが龍山に於ても同江航路の杜絕は同地繁榮上多大の不利益を來すを以て一昨日開催せる民會に於て之れが保護請願を其筋に差出せる由なるが其筋に於ても目下暴徒鎮壓に全力を盡し船舶の保護等に就き研究中なれば同航路の開航さるべきは近々中のことなるべしと云へど茲に尤も注意すべき問題は去る十五日以來日本船は其の危險に怖ちて一般も同航に向ひたるもののなきに反し支那ジャンクは既に五艘同江を溯りて貨物輸送を獨占し居る一事なり由來支那ヂャンクの同江を上下するものは每日十艘以上に登り居るも今日まで未だ一艘も暴徒の襲來に遭遇せることなし現に過日の如きは日本船三艘は暴徒の掠奪を恣にせられたるも傍にありたる支那ヂャンクは何等の攻擊を加へず否寧ろ暴徒は支那ヂャンクを歡迎の意を仄めかす態度を示すより支那人は皆安全に同江を上下し勢日本貨物の輸送をも掠奪せんとする傾向あり爲に仁川解業者は之等に就いて憂慮し居れるものありと云ふ

●富興里の船舶交通

平安北道厚昌郡富興里附近は賊徒出沒の爲め途中の危險を顧慮し惠山鎮の船舶交通は一時中止の姿なりしが五月三十日中江鎮より六艘の船舶出發し無事富興里に着翌三日惠山鎮に向て出帆せりと尚竹田里中江鎮附近は近來平穩なりと

●會議所議員撰擧委員指名

來る三十日執行せらるゝ京城日本人商業會議所半數改撰の撰擧委員長には高瀨副理事官、委員には秋吉富太郎、增田二穗、久保田虎介の三氏に三浦理事官より指命されたり

●財務署敷地踏査

仁川財務署の新築敷地選定の爲め西宮主事は同地東本願寺別院上手の空地を實地踏査せり

●花房子の寫眞寄送

一昨日仁川開港二十五年紀念會々頭富田耕司氏宛にて花房宮內次官より開港當時即ち明治十五年一行十數名長崎に於て撮影したる古色蒼然たる大版寫眞一葉に左の書狀を添へ贈り越されたり

拜啓二十五年紀念會御催相成候旨御通知も被下候處遠隔の地不任意不取敢書中を以て祝詞のみ差出置候其後二十五年史御送り被下深謝仕候此により更に當時を想起し別封寫眞一葉を送り申上候間貴役所へ御保存被下度人名其他當時の概況は別に相認め近日御送附可仕候間併せ御保存被下度先は寫眞送呈並に二十五年史落手御禮迄如此御座候匆々敬具

六月十八日　義質

仁川開港二十五年紀念會會頭
富田耕司殿

●峴南敎育會

廿一日午後一時三十分鑑洞中東學校內に峴南敎育會定期總會を開催午前六時閉會せり出席者は會長以下五十五名にして先前會々錄及會務の報告をなし規則書を頒ち了て朴晶東なる者演說を爲せり

●憲兵補助員應募數

京城憲兵分隊に於ける二十二日應募憲兵補助員は二百餘名なりしが翌二十三日は更に倍加して四百五十餘名の大多數に達し猶續々應募の模樣あるを以て分隊は非常の多忙を極めつゝあり

●連絡船の不着

昨朝釜山に着すべき關釜連絡船は暴風の爲め不着に付本日配達さるべき日本よりの郵便は配達されずと

●三土氏の囑託

元學部書記官三土氏は今回鄉里香川縣より代議士に撰出されしを以て依願免官となり過日家族引纏め歸國の爲め來京せしが家族の事情により二三ヶ月滯在する事となりたるを以て學部は同氏が在官中主任せし敎科編纂事務處理のため同氏を事務囑託となし滯在中出勤執務する事となせり

●宋內相の觀察使招宴

宋內相は廿五日午後六時より觀察使一同を明月館に招き晩餐會を催す內部より次官三局長、鶴岡、岩井兩警視出席さる筈

●三田村八郎氏

農商務省より派遣されたる實業練習生三田村八郎氏は暹羅地方の視察を終へ一昨日仁川着港昨日同會議所に就き諸般の調査に着手したるが尙は韓國一二主要地の踏査をなし歸朝する豫定なりと

●高津氏出向を命ぜらる

仁川商業夜學校主任敎師高津氏は二十日附を以て京城理事廳出向を命ぜられたるが多分善隣商業學校に入ることゝなるべし

●仁川驛收入旬報

本月中旬仁川驛の乘降客及び貨車客車其他の收入は左の如し

乘車人員	九百三十七人
降車人員	一千四百六十八人
入場人員	三百二人
發送手小荷物斤量	二萬九千六百八十八斤
客車收入金	二千五百九十二圓十三錢
發送噸數	四千三十七噸五分二厘
到着噸數	四百九十九噸六分三厘
貨車收入金	八千五百九十一圓九十九錢
發送無賃噸數	三千五百三十噸
到着無賃噸數	千五百二十四噸

公人私人

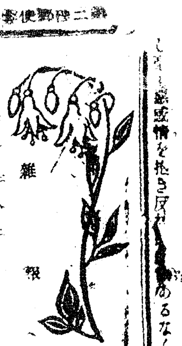
△森肇（辯護士）一昨日來京三日月
△牛田金策（平壤財務監督局事務官）沖野
△牧山榮樹（大審院判事）天眞樓
△西風重藏（商船仁川支店長）沖野
△柳澤佐太郎（平壤控訴院部長）一昨日任地へ
△青木幹道（海州地方裁判所檢事長）同上
△辻秀春（平壤控訴院判事）同上

●近事片々

▲憲兵補助員多數應募あり多くは昨夏の解散なりと其結果良好を豫想するは間違也
▲鎭衞隊時代に暴徒討伐の實況を知る者は其結果の反對に始末に困るの時あらむ
▲自衞團の組織に鑑るも結果の捷徑は諒解せらる如何に形を變るも韓人は韓人に候
▲使嗾の巧拙に依りて其働に多少變化あらむが猿は矢張猿で猛虎は何處迄も猛虎也
▲解散を再び斷行する場合に遭遇せざれば幸渠等を驅て暴徒に加擔する奇劇なき乎
▲允用君飄然徒步にて外出することあり護衞の厳かしきよりも却て洒然の快あり
▲允用頻に氣燄を吐きて我輩を罵るものは國賊也一意唯國家及皇室の爲に計れりと
▲我輩の眼中唯韓國あるのみ俯仰天地に恥ざる也噫我を知る者なき乎と浩歎は滑稽
▲口舌の重寶なる鷺を烏と言ひ黑白を堅白異同の弁も亦此類也唯一笑の外なし
▲妄說終に上海に護送せられ茲に一段落を告ぐ頑冥渠等の如きは更に腐惱の價あり
▲治外法權を楯に滯筆を振て帝國の威信を傷けんとしたるも天罰覿面幸に悔恨せよ
▲義和宮永宣君等昨今頻に弓矢の遊技に熱し屢々翠雲亭に會して互に其技を競ふと
▲說有永宣君野心あり抱負あるも蔭芽に
▲俊館素より祖父の器に非るも尋常の凡骨に非ず何時かは風雲に乘ずる時あらん乎
▲趙農相の觀察使に對する訓示演說何人の手に成りしや中々立派の者也些と不相應
▲訓示としては申分なきも趙君能く之を遵奉せしむる威信ある乎空文に不終は佳し
▲韓人は由來舌の人也辭令巧妙到底日人の及ぶ所に非ず唯之を實行するの力を缺く
▲徵稅を行政官の手に復すの說持上ると弊害多き爲に渠等の手より奪へり復舊不可
▲弊害の多きを知りつゝ亦之を唱る者あるは呆るゝ外なし世間は只好事家多き也
▲漢陸バタビヤチ、ハル鎭嶺遼陽ニコライスクポートランドへ新に領事館を置くと
▲領事館の新設は甚佳し唯注意すべきは領事其人が殿樣を氣取て商賈不熱心は困る
▲袁世凱雲南革命軍討伐計畫の宜を得たるに依り勢望隆々太師大傅になる風說あり
▲大坂朝日の小說荒木又右衞門を見て又右衞門の末孫書類及器具を携へて尋來ると
▲末孫は鳥取市の荒木保胤とて六十三になる翁にて矢張柳生流の達人也とは面白し
▲生臘取の犯人長野縣の馬場某終に死刑に處せられ十九分間に絕息良き見せしめ也

（二十二日）

●竹子の駄々捏ね
趙重應の手古摺り
姉さ妹を兩手に花



雑報

梅雨霽れの陽のギラ〳〵と射り付くる昨日今日又しても例の右夫人先岡竹子が我が三面子を惱ますこと思はば之れも何かの惡因縁ならんか、扨て花の色移ろい易く、傲る者久しからずと古文句の教ゆると知つてか知らずしてか一時漢城の交際場裡に打つて出で千枚張りの面の皮に、安白粉をゴテ塗りに塗り付け、是れが夫れにて候ぞやと趙重應の戀女房たることをヒケらかした光岡竹子も、哀れ其後度々鈍三角の鼻柱へし折られて宮中の出入は差止めらるゝ、交際場裡では他の奥様連中尻もヒリ掛けず、指を咬ねてベソかいて、罷りソン下りて居ることの已むを得ぬ仕儀となつたので、我儘でヤンチャで高慢ちきな竹子が、如何でか其儘大人しく默つて居らうぞ、否やと云ふ程趙さんに駄々を捏ねて什麼して呉れる、一体れまへさんの働きが無いからの事ぢや、妾も何で此儘引込んで居られましよう、些つとは察して下さいな、妾しが遠慮に巾の利け無くなつたは取も直さずれまへさんの巾の利け無いのぢやありませんか」とまく〳〵しかけたから趙先生堪つた者で無く諸々を氣安めを云ふても夫れに欺さるゝ竹子ならねば伊藤統監の機嫌取るより竹さんの方が餘程骨が折れると歎息を漏らして居ると此れは竹子の實の妹れ勝子と云ふ頗る別嬪が「兄さん其麼なにれ鬱ぎで無いよ此と陽氣にして在しやい、何も姉さん一人が女では無いぢやありませんか」と乙な眼付をして慰むるにぞ趙重應君宛ら轍鮒の急を救はれたる思ひ「れう勝子さんかよく察して下さつた實際女子と、小人は何とか……」と云ひも果てぬに竹子が忽ち其れを聞いて大立腹、アヽ口惜しいとばかり突如趙重應の胸元に飛び附いて恨みの百千萬言を繰り返す、夫れでも趙重應長い鼻の下に玉汗を流がし持餘した手を合せて、竹子に詫を立て幸つと宥め賺してホッと一息入れたが其の後竹子は何かに假托けてれむつかりをれ言ひ遊ばし、何かと云へば「内地に歸る日本に歸る」とばかり、强ねて見たり剝ねて見たり夫れは〳〵箸にも棒にも掛らぬ我儘、趙重應も今は竹子に比較して三四割方濃艶い勝子のあることとなれば此の際竹子の言ふ儘に任せ暫らく袂を別つべしと云へば評判の右夫人先岡氏が此の漢城から哀れな姿を引ずつて歸東するも遠からぬことなるべしとの專ら噂

●京城樂友會順序（續）

第二日　第一部

行進曲（春の倭城臺）　陸軍々樂隊
觀世流仕舞（山姥）　中川　五星
獨唱　山脇　參甫
俗歌集（軍用鞄）　陸軍々樂隊
琴（秋風の曲）　村田　檢校
筑前琵琶（宇治川合戰）　井上千代子
八雲琴合奏（絲遊竹）　加藤　清子
　　　　　　　　　　　澤田　雪子
　　　　　　　　　　　小田　初子
　　　　　　　　　　　日下部園子
　　　　　　　　　　　多治比松琴
假裝舞踏
　ビール　藤井　荻甫
　少佐　若月　龍歌
　獨逸武官　藤井　又花
　洋裝婦人　百田　宵夢
　統監　高木　盟海
　洋裝婦人　鈴木　白川
　海軍武官　林　楫月
　洋裝婦人　難波　南洲

第二部

琴（櫻井の驛）　八雲琴　中管　道雄
薩摩琵琶（城山）　同　早川　菊丸
歌劇　同　陸軍々樂隊
二曲合奏（春雨）　同　三宅　民子
　　　　　　　　　　加藤　清子
　　　　　　　　　笛　澤田　雪子
　　　　　　　　　　小田　初子
　　　　　　　　　　日下部園子
　　　　　　　　　　中管　道雄
　　　　　　　　　　高橋　淺雄
　　　　　　　　　　松島　春風
觀世流仕舞（船辨慶）　村山　呂水
獨唱（菊花と朝日）　村田　檢校
淨瑠璃（日吉丸三の切小牧山城中段）
　シテ　伊藤　松月
　ツレ　上田　白雲
寶生流謠曲（蟬丸）　本岡　慶川
琴（四段砧）　吉川　靜波
假裝舞踏
　土耳古武官　荻野　默笑
　洋裝婦人　若月　龍歌
　印度武官　井關　呉山
　洋裝少女　玉田　城陽
　紳士　眞田　寒笑
　洋裝婦女　吉岡　茶坊
　英國武官
　洋裝婦人
行進曲　陸軍々樂隊
餘興
活人畫（小野道風）、講談、劍舞等

●三井社員殺害さる

本月十三日平安南北道江界郡中江鎭に於て三井物産會社員鈴木幸助氏は强盜の爲め其居宅に於て殺害せられたり加害者は搜索中との報告同地警察官より其筋に達せり

●衛生會馬匹到着

漢城衛生會より駐韓軍司令部に購入を托したる馬匹七十頭は小林一等獸醫石川縣に出張して購入をて此し二十一日仁川に到着したるを以て内部衛生局なる都築主事人夫四十人を引率して下仁し一昨夜京城に歸着齋洞なる新築厩舍に收容せり因みに衛生會は豫備陸軍輜重兵特務曹長中島松吉氏を厩舍長に聘備せり

●檜木洞の日本貨幣

平安北道楚山郡檜木洞附近は郡衙所在地を離る二十餘里の僻地なるを以て政令未だ普及せず住民概して頑迷なるも日本一圓銀貨のみは依然として流通し居れり

●大桝屋樓上の活劇

良人の浮氣▲妻の嫉妬▲樓上の摑み合▲妻の癪ざ氣絶▲交番の厄介

人は毎日の疲れを醫する爲め晩酌の杯の數を増す日曜此日を以て無上の樂みとする家を出るとき立派なつるめぎを着し居りしかば母は早速其の行方の所を質しソレにの盡きせぬ世とはなりにけり明治町三丁目九十九番地長崎縣生れ藤本賴三（二十）は一昨の愛子）

何れの人の心も同じけれ、日に日に白粉臭き美人の面を眺めては如何に如何に石の堅いとて古女房を見飽いた目には好く見ゆると見へ新町に住める南某と云ふ男は家に遜たる女房もあるに拘らず同じ色町に住んで毎日白粉臭き娼妓の面を見るものから自分も買つて見たくなり此程より大桝屋の娼妓千歳の色香に溺れ時々通ひしを妻のれ何か知りて悋氣を起して夫婦の中に風波を起せしこともありしが去る二十一日のこと なりし晩酌の杯の過ぎたのか南某は日暮れ過ぎよりフイと家を飛び出し大桝屋に登りたるより跡に殘されし妻のれ何は此態度を見て又例の千歳の阿魔の許に巫山戲に行つたに違ひない已れ宿六奴如何するか見て居れと見る〳〵中に二本の角を生して大桝屋に駈け付け良人のが來ては居ないかと尋ねしに南は斯くあるべしと推し居たれば登る際嗅が尋ね來る時は來ないと言て追戻せと云ひ聞かせたれば仲居は空嘯いていへ其樣なれ方はつい見へませんと空打眺めてエへンと澄し居るにれ何も怪しとは思へども燃ゆる胸の炎を押さへジッと堪へながら其附近を徘徊し樣子如何と窺へば二階の聲は確かに良人の聲と聞くや否人目も何も憚らず梯子を上るや早いか良人の聲する部屋へと飛び込めば良人は千歳の眞向に胡座かき二人差向に嬉しさうに酒酌み交し意茶付合ひ居るを見て瞋恚の焔は益々燃へ上り貴郎はなく〳〵の百萬遍を繰り返し妹ましや〳〵と男の胸倉取て摑みかゝりたれば男も女の手前默つては居られず此阿魔がと螺鰈の如き拳固を振り上げて横顏を張り飛ばしたれば茲に一場の大活劇を始め泣く喚くする交番に走ると云ふ大騷ぎする中れ何は癪を起してウーンと云ひ樣其處へ倒れたるにぞ死でもせんかと又々大騷ぎなりしれ何は宅に連れ歸りて手當を加へ男は警官より嚴しくれ目玉を頂戴して將來を戒められたるが一時は仲々の騷ぎなりし

●不孝息子の標本

上茶洞三十統居住崔順元の悴崔泰元（二十）は身には相當の教育あるにも拘はらず至つて放蕩者にて青年にも似合はず酒を嗜みては女を買ひ其の結果今迄親に迷惑を掛けしこと屢々ありしが一昨廿二日は宵の口より家を出でしまひ深更に至るも歸り來らず依つて一家のものも非常に心痛し諸所心當りの家を尋ねまはりしも更に行方不明にて親も殆んど困却し居りしが昨廿三日午後呆然として家に歸り來りしより親は非常に立腹し其の場にて縛しを毆打せしより朴は非常に破壞し加へて同人を毆打し其の旨巡回の巡查に告げしより醉漢は其の場にて捕へられ散々に目玉を頂戴して引き下りたりと

●高等貸席、待合
京城旭町一丁目
伊丹屋洗濯店横へ入ル
仕乃家

●萬洗張、ゆのし、染物
●並に蒲團類調製
京城壽町二丁目
キトウ洗張店

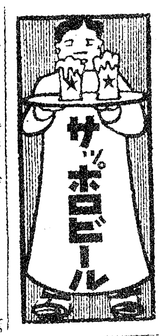
今更らながら我子の自堕落さ加減に呆れ果て頻て右の顚末を夫に物語りしに夫は非常に立腹し此奴不埒者めがと物をも言はず悴の頭部を打擲せしに悴はなか〳〵承知せず直ちに立つて親爺に抵抗し更に大騷動を演せしかば近所の者は中に入りて双方を宥め一時其の場は治まりしも悴は切々承知せず飽迄親爺を相手取りて其の筋へ訴へ出でんと敦圍き居るとか、サテも不心得極まる悴なるかな

●飼犬の行方

京城法務院長香坂駒太郎氏の飼犬ステラが雙に何人にか盜み去られて行方不明となりたるを以て香坂氏は非常に之を愛しみ其後百方搜索中の處右の飼犬は此頃に至り在仁川獨逸人ヘンデルンス方に居ることを發見したるを以て香坂氏は大に喜び早速警察の手を經て厚意的に之を連れ戻らんとて目下交渉中なりと云ふが如何にして右の飼犬が仁川に居ることを發見したるかと云ふに素と此のステラは伊太利領事より香坂氏に贈りたる者にて伊太利領事が先程仁川獨逸人の家にて右のステラを認めたるを以て試にステラ〳〵と其名を呼びたるにステラは遁が舊主を忘れず聲に應じて走り來りたるに獨逸人は直ちにステラを捕ゐて何處かに繋ぎたれば今は疑ふ處も無しと其旨香坂氏に告げたるなりと

●醉漢と豆腐

夜珠峴三十三統居住豆腐商朴明濟は一昨日午前六時頃例の通り豆腐をカタげて市中を賣り歩き南大門外に差し掛りし所向ふより一人の醉漢來り將に摺れ違はんとする際右の醉漢は亂暴にも手に持ちし煙管を以て同人の背にカタげありし豆腐をば無茶苦茶に破壞し加へて同人を毆打せしより朴は非常に立腹し其の旨巡回の巡查に告げしより醉漢は其の場にて捕へられ散々に目玉を頂戴して引き下りたりと



●只飲流行

石川や濱の眞砂はならぬ只飲の盡きせぬ世とはなりにけり明治町三丁目仁川〇〇さんが來て呉れゝばいゝね（中居の愛子）

▲明治町一丁目の石〇店のハイカラさんは去る處のハイカラ夫人と十七日夜青山待合行きは嬲れ樂しみ（りんき生）▲本町の雪子さん明洞肉屋の男色とツウ度々待合行をやるとレコが恪ますよ（差出口）▲南大門前の古池は今度入札に附する相ちやが化け物はドウなるか知ら矢張り彼の池に住んで居るだろうか（唐變木）▲古里の大き草家に唯一人梅雨に籠りたる母上はしも（泣虫）▲何と無く鳴呼何ど無く〳〵此の身悔し此の世悔し（華嚴）▲季は漸く活動の天地に入れりドレ一番元氣を出して呉れぺいか（若武者）▲有りと有ゆる廣告は新聞に載つて居るが未だ南山野合所の廣告を見ず（皮肉）▲早く好きな湖月に居た僕のれ馴染は如何なつたのだらう（長さん）▲京城に私生兒養育所と妻君速成養成所を設けたら嘸儲かるだらう（鶴の目）

●天氣豫報（自廿三日午後六時至廿四日午後六時）

西の風晴れ
二十三日午前六時各地氣象概況
各地靜穩の所多く南沿岸及内陸の二三地は曇天なれ共他は一般に晴天なり

●龍山の賭場崩れ

龍山本町三丁目居住奈良縣生れ岡本直次郎（三十）及び龍山桑町久保田三吉方雇人佐賀縣生れ江越友吉（四十）の兩人は龍山元町三丁目の道路側に於て表面射的と見せ掛け其實金錢を賭して純然たる賭博を行ひ居りたるを南部署の川野刑事の爲めに看破され兩人とも引致さる

●熙川の天然痘

平安北道熙川郡内南里驛坪里に於て天然痘發生初發以來患者總數八名内死沒せるもの五名目下治療中のもの三名あり患者は何れも十五歳未滿の小兒なりと

●酌婦膓窒扶斯に罹る

大和町一丁目江戸善方酌婦吉梅ツル（廿一）は一昨日膓窒扶斯に罹り青坡病院に送られたり

●料理にしきの開業

南山町一丁目元湖月跡にて開業したり藝妓は何れも今を盛りの花菖蒲ひきぞ揃ふ程の腕揃ひ料理の美味と値段の安いと女將が新義州や滿州にて鍛上げた凄腕と四つ相待ちて今日此頃の暑さにもメゲズ大勉强するとの事なり

●本町座の替狂言

今廿四日本町座の替狂言は一番目「憲兵の自殺」全三幕にて二番目は目下大韓日報掲載中なる變裝劇全三幕なり右變裝劇は大韓紙上に日々現はれたる事實を土台に夏向き的に面白く脚色したる者なれば都人士の觀覽するが者は充分ある可く尚峯松一座も明廿五日の興行を以て一先つ千秋樂を告ぐる筈なりと云へば今明兩夜は定めて大入りを占むるなるべし今晩の役割を左に

曾長松田良一、巡查村田（いろは）ばゃれ寅、鐵道管理局員（石巻）警部園部俊、變裝記者（稻村）東堂隆、掬翠樓藝妓やんちや（濱田）吉井勉、下女トリ（葉山）花園降麿、管理局役人難波（尾崎）花村義一、もちや婆（小泉）書生荒井進、櫻屋番頭（秋山）惡漢金太、床安（青山）藝妓小蝶、掬翠樓内笑太郎（坂本）老婆種子、掬翠樓内靜子（杉）變裝記者西山花菜（峯松）

西の宮た樂の述懐(廿一)

◎變り易きは男心

函館へ參りましてから其所此所と聞き合せヤット其の座主の居所が分りましたから直ぐ飛んで參りますと其の居る所と云ふは坂本と呼ぶ藝妓家です、變な所に居るものだと思ひながら胸を据へて上り口の障子を開け「御免下さいまし」と聲を掛けると肥れた女が出て來まして私の姿をばジロ／＼と見て居るのでムいますソコで私は「ダシヌケに伺ひまして何とも相濟みませんがアノ……此方樣に東座の座主が御世話になつて居るといふことを承知しましたのでわざ／＼參りましたが……只今家に居りますなら仙臺から參つたといふ女が尋ねて來たとソウつしやツて下さい」と事情を話して頼みますと「ハア……」といつて其の下女が奥に引き込み何にかコソ／＼咄し合つてる樣子でしたが又出來てまして「折角のお出でですが生憎只今お留守で……何んなら宿を伺つて置きまして歸り次第ソウ申し上げませう」と何んだか斯うソワ／＼して居るのでムいます、今のさき其の男の聲がした樣な氣がいたしましたのに妙な事をいふとは思ひましたが居らないといふのに押して遇はせて下さいといふ譯にも行かず「ソレならば……」と泊つて居る宿屋を言ひ置いて一先づ其の家から引き取りムシャクシャ腹で宿へ歸りヤケになつて煙草をふかして居ると女中が「お客樣只今お使で此の手紙が……」といつて手渡しをする其の手紙を受取つて裏書の名を見ると座主でムいますので封を切つて讀んで往くと驚きました其の文句といふのは

取り急ぎ候まゝ前文御免下され度候先刻はわざ／＼お出での所折惡しく不在にて何とも失禮いたし候私事當地へ參り候ても相變らず失敗つゞきにて非常の大困難を極め居り候ひしが坂本女將の厚意に依り漸く急場を助かり候樣の次第にてつい／＼御無沙汰に打ち過ぎ候段何卒不惡御見のがしの程願上候ソレが緣となりて坂本女將より私事を是非／＼養子に貰ひ受け度由相談を掛けられしがお前さまの事も有之再三、辭退仕り候へども先方はナカ／＼斷念せずタッテと申し込まれしまゝ急場を助けられし厚意もあり旁々心ならずも其の意に從ひ只今は坂本方へ養子の身と相成申候お前さまに其の事一言申し上げず身儘にかく取り極め候は何とも／＼御申し譯なき儀に候へども定まる困難と思召し只今迄の事は水に流して奇麗サッパリとおあきらめの程願上候實は御面會の上委細可申述とは存じ候へしがソウしては返つて双方の爲にならずと手紙にて申上候

とあるのです變り易いは男の心といふがマアゴンなのは世間澤山はありますまい私もグット來て急に[illegible]しました(つゞく)